

お客様各位

検査内容変更および新規検査項目のご案内

謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素はひとかたならぬお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたび下記のとおり検査内容変更および新規検査項目のご案内を申し上げます。

今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。



謹白



記

● 検査内容変更

《変更日》 令和6年7月1日（月）受付分より

《変更内容》

総合検査案内	検査コード	検査項目名称	変更内容	変更後	変更前
P.69 P.127	3346	クラミジアトラ コマチス PCR	初尿	 初尿 (QU) 分泌物 (QS)	 初尿 (QU) 分泌物 (QS)
	1486		分泌物		
P.70 P.128	1821	淋菌 PCR	初尿	別添参照	採取方法は 143 ページを参照
	1822		分泌物		
P.70 P.127	6467	トリコモナス/ マイコプラズマ・ ジェニタリウム (TV/MG) 同時核酸検出	初尿	2～4日 総合研究所 病原体遺伝子 ・ 東海中央研究所 微生物	2～6日 LSI メディエンス
	6861		分泌物		

総合 検査案内	検査 コード	検査項目名称	変更内容	変更後	変更前
P.69 P.127	7706	クラミジアトラ コマチス PCR	容器 (QUG)	 (変更なし)	
			うがい液		
P.70 P.128	7708	淋菌 PCR	保存条件	常温	2~8℃
			所要日数	4 ~ 8日	2 ~ 6日
			実施施設	ビー・エム・エル	LSI メディエンス


※ その他の検査内容に変更はございません。

《変更理由》 検査体制の見直し

● 新規検査項目

《受託開始日》 令和 6 年 7 月 1 日 (月) 受付分より

《検査要項》

検査項目名称	クラミジアトラコマチス PCR 咽頭擦過物	淋菌 PCR 咽頭擦過物
検査コード	7557	7558
JLAC10	5E021-0000-064-862-11	6B610-0000-064-862-11
TFAコード	31188500	31388500
保存条件	常温	
容器	QI (=QS) 	
実施料(判断区分)	188点(微生物)	198点(微生物)
所要日数	2 ~ 4日	

次頁につづく

検査方法	PCR法（リアルタイムPCR法）	
基準値	陰性	
備考	淋菌PCRとの同時依頼は可能	クラミジアトラコマチスPCRとの同時依頼は可能
実施施設	総合研究所 病原体遺伝子・東海中央研究所 微生物	
保険収載名称 保険注釈	<p>クラミジア・トラコマチス核酸検出</p> <p>ア クラミジア・トラコマチス核酸検出とクラミジア・トラコマチス抗原定性を併用した場合は、主なもののみ算定する。</p> <p>イ クラミジア・トラコマチス核酸検出は、PCR法、LCR法、ハイブリッドキャプチャー法若しくはTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法若しくは核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法、SDA法又はTRC法により、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体により実施した場合に限り算定できる。</p>	<p>淋菌核酸検出</p> <p>ア 淋菌核酸検出、淋菌抗原定性又は細菌培養同定検査（淋菌感染を疑って実施するもの）を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。</p> <p>イ 淋菌核酸検出は、DNAプローブ法、LCR法による増幅とEIA法による検出を組み合わせた方法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、SDA法、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法又はTRC法による。淋菌核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体（尿検体を含む）によるものである。なお、SDA法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法又はTRC法においては咽頭からの検体も算定できる。</p>

《注 意》

- ・実施料は、令和6年6月1日から適用の新点数です。
- ・検体採取方法については別添をご参照ください。

検体の採取方法

- クラミジアトラコマチス PCR
- 淋菌 PCR
- トリコモナス/マイコプラズマ・ジェニタリウム (TV/MG) 同時核酸検出

キット写真



※QU・QS・QIはすべて同一容器となります。

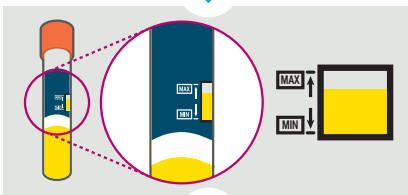
初尿 (容器：QU)

- クラミジアトラコマチス PCR 尿
- 淋菌 PCR 尿
- トリコモナス/マイコプラズマ・ジェニタリウム (TV/MG) 同時核酸検出 尿



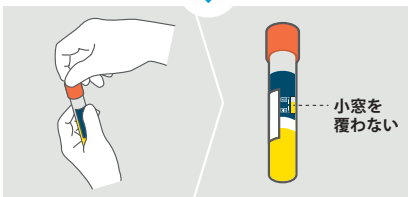
注意：検体採取前の少なくとも1時間は排尿していないことを確認してください。

患者は採尿カップを用いて初尿（排尿し始めの尿）20～30 mLを採取します。
検体採取ピペットを用いて採尿カップから初尿を分取します。



検体チューブ内の検体輸送用緩衝液をこぼさないように注意して、キャップを回して開けます。検体チューブとキャップは、内側も外側も汚染しないよう注意して取り扱い、必要に応じて手袋を交換してください。

尿の液面が検体チューブのラベルにある透明な小窓に収まるように、検体採取ピペットを用いて採尿カップから検体チューブに尿を分取します。**適量でない場合、採尿カップから新たな検体チューブへの分取が必要となります。適量を超えないように分取してください。**

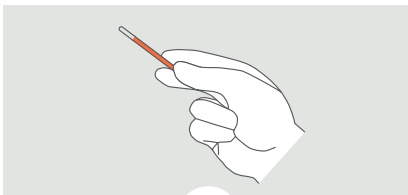


検体チューブのキャップを注意して閉めます。液漏れしないよう、キャップがきつく閉まっていることを確認してください。

検体ラベルを貼付する場合は、検体チューブの小窓を覆わないようにしてください。

子宮頸管スワブ (容器：QS)

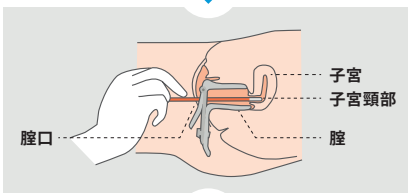
- クラミジアトラコマチス PCR 分泌物
- 淋菌 PCR 分泌物
- トリコモナス/マイコプラズマ・ジェニタリウム (TV/MG) 同時核酸検出 分泌物



注意：採取前のスワブに検体輸送用緩衝液を付着させないでください。

過剰な粘液が検体に含まれると正確な結果が得られない場合や検査不能となる可能性があります。必要に応じて、ご施設で使用されている綿棒で粘液等を取り除いてから検体を採取してください。

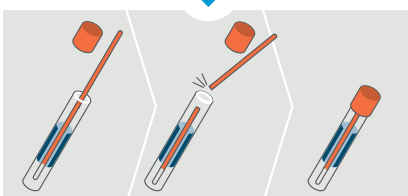
内部包装から滅菌済みスワブを取り出します。取り出した後、スワブの白い綿球部分を周囲に接触させない、または置かないように注意してください。



スワブの白い綿球部分を、子宮頸管に挿入してください。

適量の検体採取を行うため、**スワブを15～30秒間穏やかに回転させてください。**

その後、慎重にスワブを取り出してください。



検体チューブとキャップは、内側も外側も汚染しないよう注意して取り扱い、必要に応じて手袋を交換してください。

検体チューブのキャップを回して開け、直ちにスワブの白い綿球部分を下に向けて検体チューブ内に入れ、検体輸送用緩衝液がはねないようにするため、柄の切り込み線でスワブを慎重に折ります。

最後に、検体チューブのキャップを液漏れしないようきつく閉めてください。

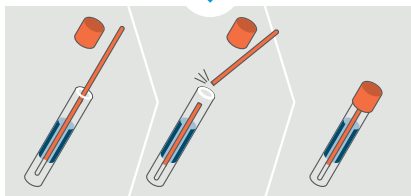
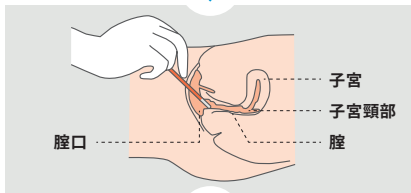
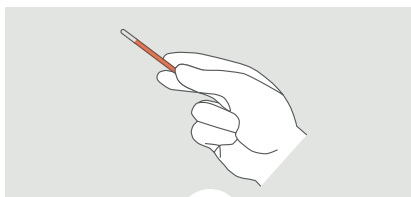
(注意事項)

検体採取後の保管温度：2～30℃

※検体チューブには1.35mLの検体輸送用の緩衝液が入っています。**採取後、溶液をこぼさないようにご出検ください。**

膣スワブ (容器: QS)

- クラミジアトラコマチス PCR 分泌物
- 淋菌 PCR 分泌物
- トリコモナス/マイコプラズマ・ジェニタリウム (TV/MG) 同時核酸検出 分泌物



注意: 採取前のスワブに検体輸送用緩衝液を付着させないでください。

過剰な粘液が検体に含まれると正確な結果が得られない場合や検査不能となる可能性があります。必要に応じて、ご施設で使用されている綿棒で粘液等を取り除いてから検体を採取してください。

内部包装から滅菌済みスワブを取り出します。取り出した後、スワブの白い綿球部分を周囲に接触させない、または置かないように注意してください。

スワブの白い綿球部分を、膣口から約 5 cm 挿入します。その際、膣の外側にある皮膚や陰唇に触れないようにしてください。

膣の側壁に沿って、スワブを 15 ~ 30 秒間穏やかに回転させてください。

その後、慎重にスワブを取り出してください。綿球部分が膣の外側に触れないようにしてください。

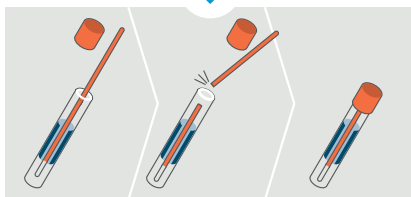
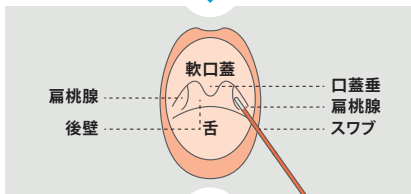
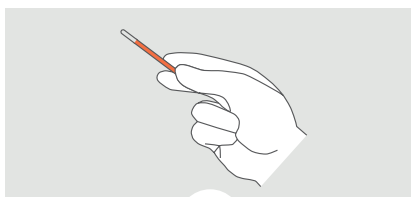
検体チューブとキャップは、内側も外側も汚染しないよう注意して取り扱い、必要に応じて手袋を交換してください。

検体チューブのキャップを回して開け、直ちにスワブの白い綿球部分を下に向けて検体チューブ内に入れ、検体輸送用緩衝液がはねないようにするため、柄の切り込み線でスワブを慎重に折ります。

最後に、検体チューブのキャップを液漏れしないようきつく閉めてください。

中咽頭スワブ (容器: QI)

- クラミジアトラコマチス PCR 咽頭擦過物
- 淋菌 PCR 咽頭擦過物
- (膣トリコモナスおよびマイコプラズマ・ジェニタリウムの検出は確立されていません)



注意: 採取前のスワブに検体輸送用緩衝液を付着させないでください。

内部包装から滅菌済みスワブを取り出します。取り出した後、スワブの白い綿球部分を周囲に接触させない、または置かないように注意してください。

スワブの白い綿球部分を各口蓋扁桃と後壁にこすりつけ、舌からは検体を採取せずに少なくとも 1 回回転させる必要があります。

咽頭滲出液がある場合、これも採取する必要があります。

その後、慎重にスワブを取り出してください。

検体チューブとキャップは、内側も外側も汚染しないよう注意して取り扱い、必要に応じて手袋を交換してください。

検体チューブのキャップを回して開け、直ちにスワブの白い綿球部分を下に向けて検体チューブ内に入れ、検体輸送用緩衝液がはねないようにするため、柄の切り込み線でスワブを慎重に折ります。

最後に、検体チューブのキャップを液漏れしないようきつく閉めてください。

(注意事項)

検体採取後の保管温度: 2 ~ 30°C

※検体チューブには 1.35mL の検体輸送用の緩衝液が入っています。採取後、溶液をこぼさないようにご出検ください。

Alinity m マルチコレクト検体採取キット 電子添文より引用・改変 (詳細は電子添文をご参照ください。)